

## 第26回ワールドユースミーティング 事業要領

**実施事業名** 第26回ワールドユースミーティング 2024

**大会テーマ** 「SDG s 世界平和を求める生き方」

**"Striving for World Peace in Daily Lives"**

**"SDGs: Tackling the Root Causes of Conflict"**

### 【事業の開催趣旨】

私ども「ワールドユースミーティング」（以下 WYM）は、25年間「高校生、大学生国際会議」を開催してきました。世界各国と ICT 活用を通してプレゼンテーションの協働制作に取り組み、英語発信力の弱い、日本の高校生、大学生が世界に働きかけることのできるグローバル人材の育成を願う活動です。

コロナ禍においてもネットワークの強みを生かし、2020年、2021年、2022年に、このイベントを途絶えることなく開催してまいりました。島国日本で世界とつながり続け、成人年齢が引き下げられた今、英語で世界に意見を述べる “ものいう高校生、大学生 “がグローバル人材の要素として重要となっております。

今年度のテーマは、「SDG s 世界平和を求める生き方」です。

その趣旨として次のように記載しております。

「ガザでは 子ども、女性の死亡が毎日伝えられる。世界各国で、“まず殺すことをやめろ、停戦しろ”との、デモや集会が起きている。激しい口論もあるだろう。 私たちも、かれら同様に 停戦を強くのぞむ。すぐに殺人はやめてほしい。

時に、わたしたちの関心は、国の外の「戦争」にもあるが、私たち自身の平和で快適で、おいさと、ファッションを楽しむ生活にも向く。 もちろん願いは「即時停戦」とだれもが願う。

私たちは自国に住む国民である。日本の場合、私たちの国の代表は、私たちを代表して、広島サミットを開催し、G7 会合で停戦に働きかけている。

銃を捨て、ペンを執ることを、世界に呼びかけている。私たちはその呼びかけに呼応する世界との接点を持っているのだろうか？

島国に住みながらも、世界との接点を日常生活の中に築き、世界平和への願いを生活の中に見つめる生き方を国際的に論議する舞台としてワールドユースミーティングを開催したいと思う。」

### 1 ICT 教育の推進

WYM は日本の情報教育の始まった 1999 年より絶えることなく毎年開催して来ました。その間、協働学習、インターネットの国際利用、アクティブラーニング、コロナ禍のオンライン開催など、日本の ICT 教育の歴史とともに歩んでまいりました。

国際協働授業などの試みを新たに加え、ICT の効果的な活用を研究し、オンラインでその知見を広く共有していきます。

昨今、英語指導について課題となっている生成 AI の教育利用について、（一社）ワールドユースミーティングでは委員会を立ち上げ、本イベントを通して、主体的な英語発信をサポートし、生成 AI の利用基準を示し、大会の中で検証を行います。

## 2 国際的 Resilience の育成

2 か国でチームをつくり発表を行います。文化の異なる相手国との協働プレゼンテーション制作では時に諍いがおきます。相手の文化・社会的背景の理解が必要となります。それらを注視し、国際的な協働力を身に着けます。

## 3 発話恐怖の克服

大学入試も変わり、知識重視から、口頭でのコミュニケーションを重視する流れへと変わりつつあります。本大会を通して、協働作業などで、「発話体験を重ね」、対面で話し合うことの重要性を学習する機会ともなっております。Fear of Speaking から Willingness to communicate への実践の場として本大会を位置づけ、（一社）ワールドユースミーティングの英語コミュニケーションの専門家（大学教授たち）がこの指導を行います。

事前のオンライン交流、当日の対面での協働発表、事後のオンラインの振り返りなどを通して、「英語に自分の気持を載せ、責任をもって発話する」場とします。「国際的に発言する力」「気持ちを込め、自らの考えを伝えるよう伝える」訓練を行います。

## 4 「対話的学び」日本の指導要領の実践

アジアを中心とした EFL 国々と連携した取り組みです。新指導要領に掲げられた、主体的・対話的な深い学びを実現する「国際的なアクティブラーニング」の成果の舞台として継続してきており、インストラクショナルデザインの研究成果を反映したイベントとします。ARCS モデル（学習意欲向上モデル）、Learner-Centered（学習者中心モデル）の教育改善の理論を適合しイベントを開催していきます。

特に、これまでモニターをお願いしている Dr. John Keller(フロリダ州立大学)、Dr. Reigeluth（インディアナ大学）から評価を受け、改善に反映していきます。

また 新指導要領の指針に学び、「何が出来るようになったか」を参加者に指し示し、「学びの喜び」「変化・成長の自覚」を促進します。

WYM は 25 年の連続開催の中で成長して来ました。国内から、また ASEAN の途上国を中心とした海外校の参加を幅広く募り、一層、活発な交流を展開する所存です。ぜひとも貴省からのご後援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**対 象：** 全国からの高校生・大学生、海外参加国の高校生・大学生  
教育関係者(高等学校・大学等の教職員、教育委員会、教育センター等の職員)

**定 員：** 1,000名

**参加費：** 無料

**日 程：** 令和6年8月6日(水) 13:00~17:00  
令和6年8月7日(木) 10:00~15:30

**場 所：** 日本福祉大学東海キャンパス  
(〒477-0031 愛知県東海市大田町川南新田 229)  
立命館大学びわこ・くさつキャンパス  
(〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1)

**主 催：** 日本福祉大学、(一社)ワールドユースミーティング  
連携協力 立命館大学

**参加校(予定)：**

国内からの参加

大 学: 日本福祉大学、東京国際大学、関西大学、立命館大学、中京大学 京都産業大学  
高 校: 早稲田大学本庄高等学院、立命館中学校・高等学校、立命館宇治高等学校、立命館  
守山高等学校 福井県立福井商業高等学校、大阪市立東高等学校、奈良育英高校、名古屋  
商業高等学校、日本福祉大学附属高等学校、神戸大学附属中等教育学校、早稲田摂陵高等学  
校、奈良県立群山高等学校、京都教育大附属高等学校、福井工業大附属福井高等学校、  
大阪府立布施高等学校

海外からの参加

フィリピン：フィリピン国立大学、ミンダナオ国際大学、ミンダナオ国際大学附属高校、  
シライ大学、シライ高校

マレーシア：マレーシア科学大学

カンボジア：王立プノンペン大学 カンボジアシェムリアップ教員養成学校 プノンペン  
教育大学 バッタンボン教育大学

韓国：チョンナム国立大学(全南大学校)

中国：温州大学

インド：アムリタ大学

スリランカ・サバラガムワ大学

台湾：輔英科技大学、樹徳科技大学、義守大學、高雄市立高雄高級工業職業学校、  
高雄市立三民高級家事商業職業學校、高雄市私立三信高級家事商業職業学校、  
私立明誠高級中学、高雄市立志高級中學、高雄市立高雄女子高級中学、高雄市立高雄高級商  
業職業学校、高雄市立瑞祥高級中学、高雄市立鼓山高級中学、高雄市立中正高級中學、高雄  
市立前鎮高級中学、高雄市立福誠高級中学、国立鳳新高級中学、私立樹徳商業職業学校、国  
立高雄師範大学附属高級中学、国立中山大学付属國光高級中学、仁武高級中学、高雄市立林  
園高級中學など

**後援（申請中）：**

外務省、総理府、文部科学省、デジタル庁、JICA、愛知県、美浜町、東海市、愛知県教育委  
員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、  
東海市教育委員会、公益財団法人名古屋国際センター、一般社団法人 日本教育情報化振興  
会

**連絡先(事務局)：**

日本福祉大学 客員教授、（一般社団法人）ワールドユースミーティング代表理事  
影戸 誠（電話：090-8470-6274）

メール [makoto@kageto.jp](mailto:makoto@kageto.jp) [kageto@n-fukushi.ac.jp](mailto:kageto@n-fukushi.ac.jp)

事務取扱 書類当送付先 日本福祉大学 東海事務室  
〒477-0031 愛知県東海市大田町下浜田 1071 番地.  
電話：0562-39-3811 FAX：0562-39-3281